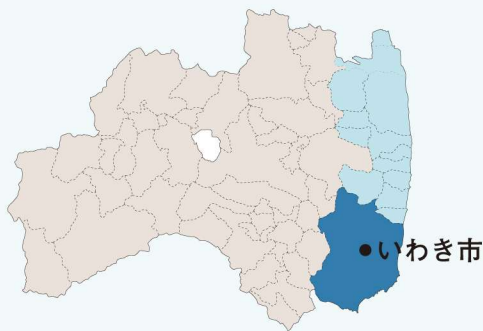


いわき市



対話で育てるそれぞれのいま・未来

～課題先進地、浜通りから～

内容紹介

日本初の広域合併市「いわき市」で2013年に生まれた「未来会議」は「対話の場づくり」を最低30年続ける団体です。震災・原発事故はこの地域の人々にさまざまな分断をもたらし、過疎・医師不足など既存の課題も加速させました。この分断や課題を人々の「対話」で緩和する試みは、地域と人々の課題を可視化し、自ら仲間を見つけて解決に挑む人に勇気を与え、多くの活動を芽吹かせました。未来会議における対話のエチケットは「すぐ否定しない」「断定しない」。発言を責められないことのない環境をつくることで、奥にしまい込んだ記憶や意識を融かし、いったん結論を留保することで、新たな意味の訪れを待ちます。皆様の地域の状況や活動を持ち寄り、震災・原発事故から7年8か月を経た双葉郡・いわき市の風景を通して見えてくる未来のことを、「多様性」「対等」を鍵として、それぞれの地域のいま・未来について対話しましょう。



対話を通して知る、浜通りの地域づくり

1日目は、原発事故により現在も避難が続く地域がある一方、避難指示が解除され新たな地域づくりに取り組む人々が活動する富岡町を視察し、津波被災バトカー、JR富岡駅、夜ノ森地区方面などを巡ります。宿泊場所は、日本三古泉「いわき湯本温泉」の元禄彩雅宿古滝屋。交流会では、各地域で風評被害と向き合いながら、価値を高める取組を続ける生産者の料理や、いわきの伝統芸能「じゃんがら念仏踊り」などをお楽しみいただけます。

2日目は、いわき市で津波被害が大きかった豊間・薄磯地区を視察いただきます。慰霊碑を参拝し、新たに築かれた防災緑地と防潮堤、高台移転地区や災害公営住宅を巡り、地元の方にもお話を伺います。好天時には塩屋埼灯台頂上にも登ります。2日間を通じて、「まちづくりファシリテーター」山口覚氏をファシリテーターに迎え、ツアー型対話ワークショップとして進行します。ご参加いただく皆様と一緒に対話しながら、それぞれの未来を考えたいと思います。



炭鉱の町に生まれた開湯元禄8年のお宿

分科会会場：いわき市
 宿泊場所：元禄彩雅宿 古滝屋
 〒972-8321
 福島県いわき市常磐湯本町三画208
 募集定員：30名
 現地経費：13,000円
 ●17日(土)／昼食費 1,000円
 宿泊費 6,000円(1泊朝食付)
 夕食交流会 5,000円
 ●18日(日)／昼食費 1,000円
 ※費用については全て税込となります。



分科会スケジュール 全体会会場から分科会会場までバスでご案内します。

11月	17日 土曜日	12:20	13:00	14:00	16:00	17:00	18:00	20:30
	全体会会場出発 → ホテルひさごで 昼食 → 富岡町内視察 (一部滞遊可能となった富岡町を体感) (JR富岡駅・バトカー参拝・夜ノ森地区ほか) → 常磐道にて移動 (車内でワークショップ) → 古滝屋到着 → 分科会交流会 (大広間ビューフェ形式) → 夜なべ談義 (地域の皆さんと親睦交流!) (自由参加 ※参加費別途)							
11月	18日 日曜日	9:00	9:40	11:30	12:00	14:00		
	宿舎出発 → 豊間・薄磯地区視察 (津波被災地の現状を視察) (慰霊碑参拝・防災緑地・災害公営住宅 塩屋埼灯台等) → 塩屋埼灯台発 → 平地区で昼食 まとめワークショップ → JRいわき駅にて解散							

お問い合わせ先
未来会議事務局
 〒970-8026 福島県いわき市平字古鍛冶町59(菩提院内)

TEL.0246-21-3188 担当 霜村
 FAX.0246-21-3193 mail:shimoyon5@yahoo.co.jp

